

さいき城山桜ホールシンボルマークデザイン募集



完成予想図

本年1月4日から2月14日まで募集したシンボルマーク(図)のデザインに533点の作品が寄せられました。さいき城山桜ホールという名称は、佐伯の象徴「城山」、この城山を仰ぎ見る大手前に市民が集い、歴史や文化芸術を学び、様々な交流が生まれる場としてふさわしく親しみやすいこと、和風な外観ともマッチすることや「桜」の名所も近いこと、市の花である「ヤマザクラ」にも掛けて名付けられました。

シンボルマークは、名称と合わせ施設の表示・案内、パンフレットやホームページなどに主に広報媒体で使用する予定です。

全国38都道府県の7歳〜87歳の皆様から届いた作品は、桜や頭文字の「S」のデザインが目立ち、建物の特徴である屋根を描きこんだものもありました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

大手前新聞

創刊
2018年(平成30年)
佐伯市役所
大手前開発推進室
☎0972-22-4623

シンボルマーク候補の選考

2月25日(月)、シンボルマークの候補を選ぶ選考委員会を開催しました。

市役所会議室の長机に533点の作品を並べ、委員5人が「デザイン」とその「趣旨(解説)」を1点ずつ確認し、選考作業を行いました。

第1次選考では作品を44点に、第2次選考では17点に絞り込んで第3次選考の候補としました。

第3次選考では、委員による採点投票を2回行い、シンボルマークの候補1点の選考を終えました。



選考の様子

選考委員会は、選考結果を取りまとめ、市長へ報告し、それを受け、今月中にシンボルマークを決定する予定です。その結果は、来月発行する本紙でもお知らせします。

市民ワークショップ

市では、市民ワークショップを平成29年4月から同年12月まで開催し、実際に利用する市民の皆さんの思いやアイデアを盛り込んだ管理運営実施計画を策定(平成30年3月)しました。

市民ワークショップでは、計画の各テーマについて、文化、食育、市民協働、子育て、商工・観光・情報発信、高校生の各部署でアイデアを出し合った後、合同部会でまとめられています。

『高校生部会』

市民ワークショップの中で特に目を引いたのは現役高校生(当時二年生)でした。合同部会でも、活発に、大胆に、爽やかな発言で部会を盛り上げてくれました。

きらめく発想

これから、2020年秋の、さいき城山桜ホール開館に向けて、催し物の企画やイベントが本格化します。ワークショップするまちづくりを目指し、高校生をはじめ、子どもたちの協力・参画を期待します。



けん玉パフォーマンス
◆12:30~13:30
◇15:00~16:00
バルーンパフォーマンス
◆11:00~12:00
◇14:00~15:00



けん玉師 しげきひろし

《内容》

桜メッセージワークショップ

桜の花びらに夢や未来の自分やマチに向けたメッセージを書いて、桜の木を満開にしよう。

大道芸パフォーマンス&ワークショップ

世界記録を持つけん玉師「しげきひろし」と、プロパフォーマー兼バルーンアーティスト「CHISHA」によるステージパフォーマンスの観覧とワークショップに参加できます。『けん玉持参でプロの技を体験しよう。』アクセサリーや、けん玉工作ワークショップなど

さいき城山桜ホール開館プレイベント
刻む足跡
未来の鼓動

3月30日(土)10時~16時、大手前野外劇場にて、参加・体験型イベント「まちなか桜フェスティバル」を、わくわくワークショップ「す」を、わくわく大手前隊と佐伯市の共催で行います。

世界と繋がる施設へ

「さいき城山桜ホール」
3月10日(日)、佐伯芸術と文化を愛する会とN.A.R.A.E. KOREAの共催で、韓国のピアノニスト「シン・ジョンヒエ」と、バリトン歌手「マテオ・ソク」によるリサイタルを開催します。美しいピアノ演奏と迫力ある歌声で圧巻のパフォーマンスを皆様にお届けしますので、ぜひご来場ください。



場所：三余館(ホール)
時間：13時30分開場、14時開演
問合せ：佐伯芸術と文化を愛する会 事務局 柳澤 080-2747-7865

入場無料 入場整理券要(1枚につき1人) 市役所本庁舎総合案内で配付

贈る言葉

今春卒業を迎える皆様、ご卒業おめでとうございます。

新しいスタートに向かって準備は整いましたか。環境が変わることによる不安を感じている方や、新生活に期待を膨らませている方、様々な思いを胸に次のステージへと進んでいくことと思いますが、健康には気を付けてお過ごしください。

これまでと違った生活で戸惑うこともあるかもしれませんが、挫折することなく明るい明日をつかみ取ってください。

佐伯がいちばん!

今から4年前、平成27年10月18日(日)、本校の生徒が、寿屋跡地で秋祭りを実施しました。『まちよくれ大手前』というタイトルで、フリーマーケットや街歩きスタンプラリーなど様々な催しを高校生自ら企画し、地域の方々に喜んで頂きました。そこで、生徒は、多くの市民が大手前へ強い思いを持っていることに気づかされました。そして、その経験を踏まえ、「故郷のこともっとよく知ろう、そしてもっと元気にしよう」という合言葉で、『味来堂』という高校生ショップの開店や、様々な行事へボランティアとして参加するなど多くの取組を積み重ねています。

本校の高校生に限らず、今の若い方は、大手前が賑やかだった時、そして高度成長もバブルの時代も経験していません。なので、生徒に「私の高校生の時は、大手前バスターミナルの待合室は、溢れんばかりの人だった。」「寿屋で、初めてエスカレーターに乗った感激は、今でも忘れられない。」と、写真や言葉でいくらか説明しても理解が難しいようです。そんな中、生徒は、私とは違った印象を、大手前に持っているように感じてきました。それは、何もない場所、これまで故郷が守り続けてきた文化や自然、産業、そこに住む人々の営みの中へ、大手前の賑わいが加わることで、「新たな時代の幕が開く」という、未来への期待や希望のようなものです。

今年、平成の世から、次の時代へ変わる節目の年でもあります。私を育て、そして支えてくれた古郷(佐伯)へ感謝し、大手前の開発が、次の佐伯を担う若者の希望になるように、私も、これから共に頑張っていきたいと強く思っています。



大分県立佐伯豊南高等学校 校長 渡邊 一郎